



政府統計

報道関係者 各位

平成 29 年 3 月 28 日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室

縦断調査管理官 後藤 敬一郎

室長補佐 近藤 敬太

コーホート分析専門官 中村 真理子 (内線 7550)

(代表電話) 03(5253)1111

21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)特別報告の結果

厚生労働省では、「21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)」の 13 年分のデータを用いて、同一個人を追跡する縦断調査の特性を活かした分析を行った結果をとりまとめましたので公表します。

【調査結果のポイント】

1 幼児期の歯磨き習慣、食生活習慣等とその後のう歯との関係

- ・保護者が子どものおやつの時間・おやつで食べるものに気をつけている場合、そうでない場合に比べ、う歯(むし歯)による通院者の割合が低い傾向。(4 頁 図2-1~図2-4)
- ・保護者が歯の仕上げ磨きをしている場合、又は対象児が自分から歯磨きをする場合、そうでない場合に比べ、う歯による通院者の割合が低い傾向。(5 頁 図3-1、図3-2)

2 乳児期の受動喫煙の有無と成長の関係：親の喫煙状況別にみた子どもの過体重・肥満率

- ・乳児期に親が喫煙しない子どもに比べ、親が喫煙する子どもの過体重・肥満率が高い。
- ・親が室内で喫煙する場合(子の受動喫煙あり)には、室内では吸わない場合(子の受動喫煙なし)よりも過体重・肥満率が高い。(6 頁 図4-1、7 頁 図4-2)

3 子どもの生活環境、健康状態が保護者の育児負担感に与える影響

- 小学校入学前後に「アトピー性皮膚炎」、「ぜんそく」、「食物アレルギー」、「発達と行動面の相談」又は「先天性の病気」での通院経験がある場合、保護者の育児負担感が強い傾向。(11 頁 図8)

4 結婚・最初の子どもの持つことを希望する時期に対する中学 1 年生の意識

- ・結婚を希望する時期について、女兒よりも男児のほうが「具体的にはまだ考えていない」を選択する割合が高い傾向。また、対象児が生まれたときの両親の年齢が低いほど、対象児が 10 代又は 20~24 歳で結婚することを希望する割合が高い傾向。(13 頁 図 10)
- ・保護者が「子どもがいてよかったと思うこと」を数多く挙げているほど、対象児は最初の子どもの持つことを希望する時期について具体的に考えている割合が高い傾向。また、「子どもは持ちたくない」と回答する割合も低い傾向。(14 頁 図 11)

調査結果の詳細は、別添概況をご覧ください。